

令和5年度事業報告

自 令和 5年4月 1日

至 令和 6年3月 31日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町7番地2

目 次

概説

- I 囲碁普及事業（公益目的事業1）
 - 1 棋戦事業
 - 2 棋士育成事業
 - 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
 - 4 囲碁対局環境の提供
 - 5 段級位認定
 - 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力
 - 7 表彰
 - 8 囲碁関係情報提供
 - 9 囲碁殿堂資料館
 - 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部
 - 10-4 海外囲碁センター
- II 収益事業
 - 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
 - 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
 - 3 販売品、書籍事業（収益事業3）
- III 管理部門
 - 1 コンプライアンス
 - 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
 - 3 広報対応と棋士のメディアへの露出
- IV 「創立100周年事業」に向けて

付記

- 役員等に関する事項
- 令和5年度 事業報告

概説

日本棋院は、我が国の国技であり伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

I 囲碁普及事業（公益目的事業1）

1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。挑戦手合や棋戦決勝は各地で開催され、地方での囲碁普及につながっております。コロナ禍により棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流は長らく制約を受けていましたが、5月にコロナ感染症が5類に移行したのに伴い、徐々に再開されて活気を取り戻してきました。棋戦の様子は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。

令和5年度は、一力遼棋聖、芝野虎丸名人、井山裕太王座を中心に各棋戦が行われました。本因坊戦では、11連覇中の井山裕太本因坊に一力棋聖下して、初の本因坊位を獲得しました。棋聖戦では、一力棋聖が井山王座の挑戦を4勝3敗で退けて防衛し、3連覇を達成しました。名人戦では芝野名人が井山王座の挑戦を退けて防衛。トップ棋士の実力が拮抗していることを示しました。

これらを含めた棋戦（挑戦手合、決勝）の結果は以下の通りです。

（段位は対局当時。棋戦名、期・回数、棋戦の形式、主催や協賛社名、対局者と結果。棋戦形式無記はトーナメント戦）

- (1) 棋聖戦（第48期 挑戦手合七番勝負 読売新聞社）
一力 遼 棋聖 — 井山 裕太 王座
（一力遼棋聖が4勝3敗で棋聖位を防衛、3連覇）
- (2) 名人戦（第48期 挑戦手合七番勝負 朝日新聞社）
芝野 虎丸 名人 — 井山 裕太 王座
（芝野虎丸九段が4勝2敗で名人位を防衛、2連覇）
- (3) 本因坊戦（第78期 挑戦手合七番勝負 毎日新聞社）
井山 裕太 本因坊 — 一力 遼 棋聖
（一力遼棋聖が4勝3敗で本因坊位を奪取）
- (4) 王座戦（第71期 挑戦手合五番勝負 日本経済新聞社）
井山 裕太 王座 — 余 正麒 八段
（井山裕太王座が3勝2敗で王座位を防衛、3連覇）
- (5) 天元戦（第49期 挑戦手合五番勝負 新聞三社連合）
関 航太郎 天元 — 一力 遼 棋聖
（一力遼棋聖が3勝1敗で天元位を奪取）

- (6) 碁聖戦 (第 48 期 挑戦手合五番勝負 新聞囲碁連盟)
井山 裕太 碁聖 — 一力 遼 棋聖
(井山裕太碁聖が 3 勝 0 敗で碁聖位を防衛、3 連覇)
- (7) 十段戦 (第 61 期 挑戦手合五番勝負 産経新聞社)
許 家元 十段 — 芝野 虎丸 名人
(芝野虎丸名人が 3 勝 1 敗で十段位を奪取)
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦 (第 30 期 京都新聞社・阿含宗)
一力 遼 棋聖 — 井山 裕太 王座
(一力遼棋聖が勝ち優勝)
- (9) 新人王戦 (第 48 期 しんぶん赤旗)
姚 智騰 六段 — 上野 愛咲美 五段
(上野愛咲美五段が 2 勝 0 敗で新人王を獲得)
- (10) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第 71 回 NHK)
一力 遼 棋聖 — 芝野 虎丸 名人
(一力遼棋聖が勝ち優勝)
- (11) 竜星戦 (第 32 期 囲碁将棋チャンネル)
井山 裕太 竜星 — 芝野 虎丸 名人
(井山裕太竜星が勝ち優勝)
- (12) 女流本因坊戦 (第 42 期 挑戦手合五番勝負 共同通信社)
藤沢 里菜 女流本因坊 — 上野 梨紗 二段
(藤沢里菜女流本因坊が 3 勝 2 敗で女流本因坊位を防衛、4 連覇)
- (13) 女流名人戦博多・カマチ杯 (第 34 期 挑戦手合三番勝負 一般社団法人巨樹の会)
藤沢 里菜 女流名人 — 上野 愛咲美 女流立葵杯
(上野愛咲美女流立葵杯が 2 勝 0 敗で女流名人を奪取)
- (14) 会津中央病院杯・女流立葵杯 (第 10 期 挑戦手合三番勝負 温知会)
上野 愛咲美 女流立葵杯 — 藤沢 里菜 女流本因坊
(上野愛咲美女流立葵杯が 2 勝 1 敗で女流立葵杯を防衛、2 連覇)
- (15) 女流棋聖戦 (第 27 期 挑戦手合三番勝負 NTTドコモ)
仲邑 堇 女流棋聖 — 上野 梨紗 二段
(上野梨紗二段が 2 勝 1 敗で女流棋聖位を奪取)
- (16) 扇興杯女流最強戦 (第 8 回 センコーグループホールディングス)
牛 栄子 扇興杯 — 上野 愛咲美 女流名人
(牛栄子扇興杯が勝ち 2 連覇)
- (17) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦 (第 6 回 センコーグループホールディングス)
崔 精 九段(韓国) — 鈴木 歩 七段(日本)
(崔精九段が勝ち優勝)
- (18) 王冠戦 (第 64 期 挑戦手合一番勝負 中日新聞社)
伊田 篤史 王冠 — 六浦 雄太 八段

- (伊田篤史王冠が勝ち王冠位を防衛、8連覇)
- (19) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第18回 広島アルミニウム工業)
小池 芳弘 七段 — 広瀬 優一 七段
(広瀬優一七段が勝ち優勝)
- (20) S G W杯中庸戦 (第6回 セントグランデW)
16名のリーグ戦。志田達哉八段が優勝
- (21) テイケイグループ杯俊英戦 (第3回 テイケイ、テイケイグループ各社)
芝野虎丸名人、関航太郎九段が決勝進出。
- (22) テイケイグループ杯レジェンド戦 (第3回 テイケイ、テイケイグループ各社)
18名による本戦が進行中。
- (23) テイケイグループ杯女流レジェンド戦 (第3回 テイケイ、テイケイグループ各社)
小山 栄美 七段 — 小林 泉美 七段
(小林泉美七段が勝ち優勝)
- (24) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第10回 グロービス)
韓 友賑 七段 (韓国) — 王 星昊 八段 (中国)
(韓友賑七段が勝ち優勝)
- (25) ディスカバリー杯 (第4回)
8名のリーグ戦。表悠斗初段が優勝
- (26) 海外棋戦
海外棋戦では、L G 杯、三星火災杯、春蘭杯、夢百合杯、爛柯杯、国手山脈杯、農心杯、呉清源杯、甲級リーグ、丙級リーグ (中国) などに参戦しました。
- (27) 関西オープン囲碁トーナメント 2023 (第4回・阪急電鉄株式会社)
トップクラス 村川大介九段 Aクラス 呉 柏毅五段 Bクラス 岩丸 平七段
Cクラス 畠中星信五段 Dクラス 表 悠斗二段

平成 25 年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『G O ・碁・ジャパン』を結成し、12 年目を迎えました。

令和 5 年度も監督、コーチ、選手の総勢 55 名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。コロナ禍による規制が緩和され、海外棋戦は中国、韓国への往来ができるようになり、現地での対局が戻ってきました。棋力強化合宿を夏季と冬季の 2 回行いました。その他、チーム参加棋士の棋力強化に向けて、毎週土曜日のナショナルチーム研究会において、新しいリーグ戦を始め、チーム活性化を図りました。

また、「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、5 年度はファンの皆様から 86 件、843 千円の募金がありました。募金は、海外渡航と、強化合宿費用活用しました。令和 5 年度の残高が 6,476 千円となり、令和 6 年度に繰り越し、次年度のナショナルチーム強化に向けた活動に使用いたします。

2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のための環境を整えました。

(1) 院生強化育成（院生研修）

棋士を目指す約 70 人の院生を A から E クラスに分け、毎週土・日曜日（8 回/月）に研修を東京本院・関西総本部・中部総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。新型コロナウイルスに流行に伴い、ソーシャルディスタンスを留意し、細目に手洗い・消毒をするよう院生に指示するなど感染予防に努めました。

院生研修は棋士採用に紐づいており、院生たちが棋士を目指す環境づくりにも感染予防に注意しながら努めました。

(2) 棋士採用（研修・試験）

(1) で記したように院生研修は棋士採用に紐づいています。

令和 5 年に実施した令和 6 年度棋士採用については下記の通りとなります。正棋士 1 名が採用される夏季採用枠は例年東京本院で 4 月・5 月・6 月に行われる院生研修の総合成績で決まります。

関西総本部・中部総本部においても各年毎に院生研修の成績で総合 1 位の院生を各総本部の所属棋士として採用する制度があり今回は中部総本部で実施され 1 名が採用されました。

8 月から 11 月まで東京本院では冬季採用試験を実施。外来受験者・院生計 28 名が参加し上位 2 名が合格しました。また関西総本部・中部総本部においても各年毎に外来受験者を交えた同様の採用試験があり上位 1 名が各総本部の所属棋士として採用されます。今期は関西総本部で実施され 15 名が参加し 1 名が関西総本部所属棋士として採用されました。

また女流特別採用棋士を採用する試験も 12 月から実施しており、外来・院生計 11 名が参加し、1 名が採用となりました。

(3) 棋士採用（推薦）

(2) の試験とは別に棋士になる方法として推薦制度があります。

囲碁普及活動の増進と女流碁界の拡充のため導入された女流特別採用推薦制度は、院生及び院生経験者が対象となり、下記の 1 から 3 の条件のいずれかに該当すれば院生師範によって推薦されます

1. 東京本院において同一年内に院生研修 A クラスに 5 か月以上在籍した者
2. 冬季採用試験本戦において 5 割以上の成績を挙げた者
3. 上記の 1 及び 2 に準ずる成績を収め、かつ将来を嘱望され、所属の院生師範全員の推薦があった者

本年は上記の基準に照らし、中部総本部から 1 名推薦され、採用されました。英才特別採用推薦棋士制度は女流特別採用推薦制度と同じく昨年度導入された

制度です。棋道の継承発展、内外への普及振興を目的とするもので、囲碁世界戦の優勝を目指すなど、最高レベルの棋士となるべく、候補者の実績と将来性を評価し、日本棋院の現役7大タイトル保持者および、ナショナルチーム監督とコーチ3分の2以上の賛成により、採用されます。対象は原則として小学生なため、条件は厳しく、採用がありませんでした。

外国籍特別採用制度は囲碁の海外普及を目的として推薦制度で、日本・中国・韓国・台湾・北朝鮮以外の国籍を持つ院生及び院生経験者が対象で、冬季棋士採用試験において5割以上の成績を収めるなどの条件を満たすと院生師範によって推薦され、採用されます。今回は該当者がおらず、採用者がいませんでした。

上記の採用制度で令和6年度に入段したものは下記のとおりです。

- ・ 東京本院 夏季採用 (1名) 関 涼介
- ・ 本院 冬季採用 (2名) 柳井 一真、陳 柏劭
- ・ 関西本戦採用 (1名) 笠原 悠暉
- ・ 中部本戦採用 (1名) 志賀 司
- ・ 女流特別採用 (1名) 高山希々花
- ・ 女流特別採用 推薦 (1名) 竹下 奈那

(4) 若手棋士育成

囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に18歳以下(女流棋士は20歳以下)の若手棋士26名が登録・参加。

コロナ禍の状況を見ながら、棋力強化合宿を3年ぶりに復活させました。また対面による研究会を毎週土曜日に実施し、ナショナルチームの活動を広く囲碁ファンにご理解頂くため、対局の様様をネット対局「幽玄の間」で公開いたしました。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ220名の棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア教室の開催

東京本院、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開しています。令和 5 年度は小・中・高校の正課授業として 45 校の 10,191 人、正課授業以外として 101 校で 14,485 人が参加いたしました。令和 5 年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおりです。

北海道：岩見沢市立第一小学校他 3 校、**青森県**：青森市立千年小学校他 4 校、**秋田県**：能代市立二ツ井小学校他 5 校、**福島県**：福島市立三河台小学校、**栃木県**：宇都宮市立宮の原小学校、**埼玉県**：さいたま市立岸町小学校他 5 校、**千葉県**：昭和学院小学校他 1 校、**東京都**：品川区立浅間台小学校他 66 校、**神奈川県**：横浜市立荏田南小学校、**石川県**：能美市立和気小学校、**静岡県**：島田市立金谷小学校他 3 校、**愛知県**：長久手市立市が洞小学校他 3 校、**三重県**：熊野市立井戸小学校他 2 校、**大阪府**：関西大学初等科他 1 校、**兵庫県**：明石市江井島小学校、**福井県**：福井市立麻生津小学校、**島根県**：大田市立仁摩小学校、**岡山県**：岡山市立岡北中学校、**佐賀県**：佐賀市立神埼小学校他 4 校、**熊本県**：玉名郡和水町立菊水小学校

〈主な行政囲碁事業の取り組み〉

【東京都中央区】平成 24 年から区内の 4 つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、令和 5 年度は 8 校の小学校で、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

【東京都品川区】放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校 37 校全校で囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」(文部科学省・厚生労働省)において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、学校囲碁指導員講習会を実施しています。令和 5 年度は大仙市で対面形式での実施、今年度もオンライン形式の講習会を行い 55 名の参加者がありました。

(4) 大学での囲碁授業の導入

① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年より、東京大学教養学部と連携して 1、2 年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し、大学囲碁授業のモデルケースとなっています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを継続的に行っています。

② 全国 37 大学で囲碁授業を実施

令和 5 年度と同様に、東京大学、東邦大学、早稲田大学、日本保健医療大学、青山学院大学、琉球大学、東京工業大学、筑波大学、近畿大学、京都大学、名古屋大学、福山大学、一橋大学、神奈川大学、大阪大学、東京学芸大学、九州大学、東京理科

大学、長岡技術科学大学、愛知学院大学、名古屋市立大学、神奈川工科大学、高崎経済大学、千葉経済大学、立教大学、千葉大学、弘前大学、島根大学、高崎健康福祉大学、尾道市立大学、北海道大学、福井大学、桃山学院大学、九州産業大学、中村学園大学と鳥取大学で囲碁授業を開講。うち神奈川大学ではキャンパス移転のタイミングで授業数が1コマから2コマに増加しました。

また、一部の大学では初回ガイダンスのみオンラインで実施されましたが、全ての大学でコロナ前の対面授業が再開されました。日本棋院は囲碁授業実施大学に31名の棋士を講師として派遣しました。

令和6年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に行います。

(5) がっこう囲碁普及基金の活用

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと平成27年に「がっこう囲碁普及基金」を創設し、小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。令和5年度は162件、2,316千円のご支援をいただきました。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成17年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。令和4年度は、10社よりご支援を頂きました。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で1,750局の指導碁を実施しました。特に5月3日に行ったキャンペーン指導碁では1日に203局を行いました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。令和5年度は、前年度よ

り若干派遣件数および派遣棋士数も増加し 78 件、228 名の派遣を行いました（令和 4 年度：76 件、221 名）。令和 6 年度はさらに件数も増加し以前の状態に近づくと想定しています。

（5）初級者教室（旧囲碁未来教室）の開催

級位者のための「囲碁未来教室」は月刊誌「囲碁未来」が令和 4 年 2 月をもって休刊となりましたが、「初級者教室」として当面継続して教室を運営します。令和 5 年度は全国で 62 の教室で開催されました。

（6）囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、全国の支部や囲碁愛好家、行政組織と連携し、全国各地で囲碁イベントを開催しました。令和 5 年度は前年度に比べてイベント開催数が増えました。

また、支部代表者懇談会を全国 8 ヶ所で開催し、各地域の普及状況を共有しました。

○ 第 44 回普及功労賞

- ・ 水野 英毅（元富山県支部連合会会長・現顧問）
- ・ 石橋 正利（長崎県支部連合会幹事長、長崎中央支部監査・相談役）

○ 第 42 回普及活動賞

- ・ 全国で 33 名を表彰

○ 令和 5 年度優秀支部表彰

- ・ 支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）1,184P
- ・ 会員増十傑 一位 益田支部（島根県）15 名

（7）留学生向け囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、12 月 19 日にオンラインにて囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されており、講師は青葉かおり五段です。囲碁の授業は 2005 年より始まり、今年度で 15 回目を迎えました。

（8）英語による大学生向け囲碁講義

また、12 月 15 日には、「Cool Japan」という授業の中で、アンティ・トルマネン初段による英語の囲碁講義が青山学院大学の相模原キャンパスにて開催されました。こちらは、グローバルな人材育成を目標に、自国の伝統文化を学んでもらうという目的のもと、日本人の学生を対象に実施されています。授業は、対面で実施され、約 60 人の受講生が参加しました。

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

（1）海外拠点での取り組み

海外の拠点であるブラジル南米本部（サンパウロ）において、継続的に囲碁普及のた

めの活動を行っています。

(2) オンラインコンテンツ配信

海外版日本棋院囲碁チャンネル(YouTube)を開設し、2021年度より海外のファン向けに英語による囲碁コンテンツの動画配信を本格スタートし、2022年度にはチャンネル登録者数が1,000人を超えました。2023年度も継続し維持に努めました。

(3) 第43回世界アマチュア囲碁選手権戦

世界アマ発出場となる栗田佳樹さんが、5勝2敗の成績で4位入賞を果たしました。ベスト4は16年ぶりの快挙でした。

46ヵ国・地域から集まった選手達が参加し、全7回戦を打ち終え、韓国代表の金正善選手が優勝しました。

(4) 棋士の海外派遣

コロナが収束した2023年度は、海外棋士派遣が再開されました。ドイツで開催されたヨーロッパ碁コンGRESSに大橋七段、ワールドユース、シンガポール大会に団長として蘇耀国九段、US碁コンGRESSに柳澤六段、ラテンアメリカ碁コンGRESSに円田九段の計4名の棋士派遣がありました。

(5) サマーG0キャンプの開催

8月21日から27日までの期間、一力九段、武宮九段をはじめとする19名の日本棋院の棋士を講師に迎え、講義や指導碁、参加者全員参加のリーグトーナメント戦、椿山荘での名人戦見学など、様々なプログラムを用意した海外の囲碁ファン待望の日本棋院サマーG0キャンプを開催しました。国内の日本人も参加できるプランを用意し、囲碁を通しての国際交流の場にもなりました。参加者は国内外を通し、のべ39名でした。

4 囲碁対局環境の提供

インターネット通信対局「幽玄の間」や日本棋院の各施設における一般対局場の運営に加え、オンライン講座の新規開設等を通じて誰にでも囲碁が楽しめる環境を提供し、囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

(1) オンライン講座の成長

2020年10月に開始したオンライン講座は、2023年にスタッフを一新、内容の拡充を図りました。Youtubeでのアピール動画の公開も開始し、今後の日本棋院主力商品に育つよう、引き続き力を入れてまいります。

オンライン講座はインターネットを活用した4回程度の短期集中講座で、従来型の対面講座では実現が難しかった夜間の開講や、トレンドに即応したテーマの設定等を通じて、新規顧客開拓を目指しています。またオンラインでの講座が得意なプロ棋士の個性開花も期待されています。

(2) 一般対局場の運営維持

いつでもどなたでも気軽に立ち寄り対局できる一般対局場は、アマチュア囲碁界の最も基本的なインフラとして、年末年始を除き毎日営業いたしました。

コロナをきっかけに、通路を広く取った座席配置へレイアウトを変更し来場者から好意的に受け止められています。来場者は徐々に復調の傾向にあり、東京本院の対局場来場者数は昨年より2000名以上増の12,912人、有楽町囲碁センターは31,045人、関西総本部の梅田囲碁サロン11,961人、中部総本部9,699人、合算して62,662人が利用しました。

(3) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上やスマートフォン、タブレットで手軽に対局を楽しめる環境を提供し、およそ522万局の対局が行われました。

(4) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりは、前年同様18県での開催に留まり、1,164人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、特別紙上認定、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(3) 情報会員

情報会員向けにホームページ上に認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(4) 幽玄の間

『幽玄の間』で一定の条件を満たして免状申請された方に、レーティングによる免状発行を行いました。

6 囲碁大会の開催

多くの全国大会がコロナ前の姿に戻っての開催となり活況を呈しました。大会参加者のレベルも年を追って飛躍的に向上しています。全国大会に先立つ都道府県予選の参加人数も回復傾向にあります。

各都道府県において日本棋院県本部あるいは県支部連合会や日本棋院支部の協力により、囲碁大会の主催・後援等を行いました。後援したイベントは85、参加者予定数は延べ38,980

人となっています。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

少年少女囲碁大会、高校選手権、こども棋聖戦の全国大会を開催、保護者や囲碁ファンが観戦に訪れました。

高校生までの青少年を取り巻く囲碁環境はほぼコロナ以前に戻ったということができません。地方自治体を含む各種スポンサーからも引き続きのご支援を賜りました。

☆第47回文部科学大臣杯 全国高等学校囲碁選手権（競輪補助事業）

日程	2023年7月24日(月)～26日(水)、
会場	日本棋院東京本院(東京都千代田区)
内容 結果	○男子団体戦：優勝 仙台第二高等学校(宮城) ○女子団体戦：優勝 花園高等学校(京都) ○男子個人戦：優勝 小島 二十(大分・大分東明高等学校2年) ○女子個人戦：優勝 小室 杏花(東京・角川ドワンゴ学園S高等学校3年)
実施者	主催：日本棋院、全国高等学校囲碁連盟、高等学校文化連盟全国囲碁専門部 後援：文部科学省 協賛：株式会社ブルボン、ウシヤマ電機株式会社、株式会社囲碁将棋チャンネル、公益財団法人JKA

☆第44回文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会（競輪補助事業）

日程	2023年8月1日(火)～8月2日(水)
会場	日本棋院東京本院(東京都千代田区)
内容 結果	○小学生の部：優勝 横手 悠生(東京・大田区立調布大塚小学校5年) ○中学生の部：優勝 深田 裕仁(埼玉・筑波大学附属中学校3年) ○本大会の様子はNHK Eテレで放送
実施者	主催：日本棋院 後援：文部科学省、NHK 特別協賛：大成建設株式会社 協賛：公益財団法人JKA

☆第13回 くらしき吉備真備杯こども棋聖戦全国大会

日程	2023年12月16日(土)～17日(日)
会場	マービーふれあいセンター(岡山県倉敷市真備町)
内容 結果	○低学年の部：優勝 小川 蓮(東京・暁星小学校3年) ○高学年の部：優勝 横手 悠生(東京・大田区立調布大塚小学校5年)
実施者	主催：倉敷市、読売新聞社、日本棋院、倉敷市文化振興財団 共催：倉敷市教育委員会、山陽新聞社 後援：矢掛町、関西棋院 協賛：幻冬舎、倉敷真備ライオンズクラブ

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

アマ竜星戦を除くアマ棋戦がコロナ前の形で実施されました。

コロナ前に好評を博していた宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦は、会場での試飲がネックとなり正式に終了となりましたが、スポンサーの宝酒造株式会社には、全国各地の地元大会に参加賞として製品をご提供頂く形でご支援を継続して頂けることとなり、全国の囲碁

ファンから歓迎の声で迎えられました。

(1) 宝酒造商品ご提供大会

お酒の試飲と対局が同時に楽しめる宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦の終了に伴い、スポンサーの宝酒造株式会社からは宝酒造商品 3000 名超分をご提供頂く新しいご支援を頂戴しました。全国の地元大会で多くの方に宝酒造商品をお持ち帰り頂きながら、囲碁大会を楽しんで頂ける仕組みとなっています。

(2) アマ三大棋戦

☆第 17 回アマ名人戦

内容	大関稔アマ名人が、夏冰挑戦者を三番勝負で退け、アマ名人位 4 連覇を果たしました。 ※アマ名人戦：各県代表による全国大会により挑戦者を決め、挑戦者がアマ名人に三番勝負でアマ名人に挑む挑戦手合制。
----	--

☆第 69 回アマ本因坊戦

内容	大関稔選手が全国大会で優勝、アマ本因坊位を獲得しました。 ※アマ本因坊戦：各県代表による全国大会によりアマ本因坊を決定するトーナメント制。
----	--

☆アマ竜星戦(世界アマ決定戦)

内容	スポンサー判断で開催を見合わせました。 アマ竜星が兼ねる世界アマ日本代表の座はアマ名人とアマ本因坊の一番勝負により決定。 ただし大関稔選手がアマ名人とアマ本因坊の 2 冠となったため、一番勝負は行わず、大関稔選手が世界アマ日本代表に決定しました。 ※アマ竜星戦：各県代表による全国大会によりアマ竜星を決定するトーナメント制。
----	---

(3) 女流アマ選手権

☆第 66 回女流アマ選手権

内容	シード・内田祐里選手が 2 度目の優勝を果たしました。
----	-----------------------------

(4) 女流アマチュア都市対抗戦

☆女流アマチュア都市対抗戦

内容	コロナにより中止
----	----------

(5) 阪急納涼囲碁まつり

☆第 11 回阪急納涼囲碁まつり

日程・会場	8 月 15 日 (火) ホテル阪急インターナショナル (大阪府大阪市) 台風のため中止
内容	席上記念対局、指導碁、アマチュアイベントを予定していました

(6) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ日本代表決定戦 県予選

2019年度から世界アマ日本代表決定戦はアマ竜星戦と合併していますが、今年もアマ竜星戦が中止となったため、世界アマ日本代表決定戦県予選も中止となりました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、令和5年度は21道府県、1,661人が参加しました。

(7) 全国規模イベントへの参加

10月29日、30日には愛媛県松前町でねりんピック笑顔のえひめ2023が行われました。また11月11日、12日には石川県金沢市で「アジア囲碁の祭典」として国民文化祭が行われ参加しました。

(8) インターネット大会

例年行っていた「幽玄の間」を利用した大会は、AI対策の難しさなどもあり開催を見送りました。

(9) その他イベント

・ジャンボ大会、オールアマ団体戦等の団体戦

囲碁ファンの交流の場として人気の団体戦が再開、全国各地からの参加選手でにぎわいました。

6-3 国際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力

第17回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦

9月26日から9月28日まで、ネット対局にて開催され、日本からアマ代表の大関稔選手が出場し、3位の成績を修めました。

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ、毎年表彰しております。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第53回大倉喜七郎賞

蒲池 眞澄 カマチグループ会長・創設者

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が囑望される棋士に贈呈されます。

第61回秀哉賞

一力 遼 棋聖・本因坊・天元・桐山杯・俊英

(3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」（昭和42年）によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を

授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第 57 回棋道賞（段位タイトルは受賞時）

最優秀棋士賞 一力 遼 棋聖・本因坊・天元
優秀棋士賞 芝野虎丸 名人・十段
新人賞 広瀬優一 七段
女流賞 上野愛咲美 新人王・女流名人・女流立葵杯
国際賞 藤沢里菜 女流本因坊
最多勝利賞 上野梨紗 二段 49 勝（19 敗）
勝率第 1 位賞 広瀬優一 七段 0.7647（39 勝 12 敗）
連勝賞 志田達哉 八段

（16 連勝 2022 年 1 月 13 日から 2022 年 4 月 11 日）

最多対局賞 上野愛咲美 女流立葵杯・女流棋聖 74 局

（4）囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

令和 5 年度 第 20 回殿堂入り 中村 道碩（1582 年－1630 年）
牧野 伸顕（1861 年－1949 年、日本棋院初代総裁）
加藤 正夫（1947 年－2004 年、名誉王座）

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

（1）雑誌、新聞の発行

- ① 「月刊碁ワールド」定価 990 円 毎月 20 日発売 B5 判 152 頁建
中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。一力遼棋聖初防衛、本因坊文裕 11 連覇の新記録達成、関航太郎天元初防衛等の七大タイトル、藤沢里菜女流本因坊、女流名人防衛、仲邑菫女流棋聖奪取、牛栄子扇興杯優勝等の話題を取り上げております。また、「囲碁未来」が令和 4 年 2 月に休刊したのに伴い、初心者・級位者向け講座などを掲載しています。
- ② 「週刊碁」定価 330 円 毎週月曜日発行 新聞タブロイド判 20 頁建
週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成となっておりましたが、材料費や発送費の高騰により事業継続が困難となり 2023 年 8 月末をもって休刊といたしました。
- ③ 「囲碁年鑑」定価 3,850 円 年 1 回発行 B5 判 396 頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑等を掲載しております。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、棋戦情報、大会・イベント情報、棋士に関する情報、出版情報など、囲碁に関する様々な情報記事を提供しています。

年間1,000件以上の最新囲碁ニュース(棋戦結果速報)やイベント情報記事を更新し、全世界で延104万ユーザーから年間1,585万(前年比-20万)アクセスがありました。

② 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を2,000局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページ上でも中継棋譜の再生が出来る仕組みを提供しています。そのほか、AIの評価値表示機能の提供や同好会機能による囲碁ファン同士の交流も行なっています。令和5年度には勝敗予想機能を導入し新しい楽しみ方を提供しました。

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60年以上に亘る、6万6千局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

④ 電子書籍

iPhone&iPad 端末向き「i碁BOOKS」、パソコン向き「e碁BOOKS」の電子書籍配信サービスは2021年3月31日にサービスの提供を終了し、2021年2月1日よりAmazon社のKindleにて電子書籍の販売を開始いたしました。週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、書籍等を195冊販売しています。

⑤ YouTube「日本棋院囲碁チャンネル」

2018年2月に映像配信サイト「YouTube」上に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、棋戦や表彰式をライブ配信しました。令和5年度は番組配信数256回(前年比+38回)、チャンネル登録者数46,953人(前年比+4,961人)、視聴回数6,043,444回(前年比-309,675回)、総再生時間1,686,857時間(前年比-203,482時間)でした。チャンネル登録者数は増加しておりますが、チャンネル登録者増加率、視聴回数、再生時間は減少傾向です。

⑥ 棋道 web

休刊となった週刊碁に替わって2023年9月よりインターネット上で「note」をプラットフォームとした情報発信を行うことになりました。囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座等幅広い内容をよりスピーディにお届けしています。令和5年度は

47万アクセスがありました。

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1 有楽町囲碁センター

光熱費や設備維持費等、各種物価高の影響により、当センターも2024年1月から入場料を2割ほどの値上げを行いました。値上げ後の影響として、来客者数は1月から3月まで7,663名（前年度同月間8,269名）となり、8パーセントほど減少しました。しかしながら、同月間の売上は1600万円（前年度同月間1380万円）となり、20%弱の収支改善となりました。今後は現状の客単価を維持しながら、来客者数の回復、および新規来客者を増やせるようなイベントや企画運営が急務となっております。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。普及拠点である「梅田囲碁サロン」および「茶屋町囲碁サロン（会員制）」を運営し、各種囲碁イベント、貸室そして教室等を開催しました。

(1) 主要大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル2023 _____ 325名
- ・第19回寝屋川囲碁将棋まつり _____ 500名程度
- ・定例段級位認定大会（年6回開催） _____ 計445名
- ・各種親睦大会〔年20回〕および級位者大会〔年6回〕 _____ 計1651名
- ・各種親睦大会〔年19回〕および級位者大会〔年6回〕 _____ 計987名

(2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

・「梅田囲碁サロン」は年末年始およびお盆休みを除きサロン営業を行い普及に努めました。新型コロナウイルス感染症が5月に「5類感染症」に変更後、来場者数が順調に増えるかと思われましたが回復傾向は鈍く、また6月から8月にかけて起こった稀に見る猛暑の影響で高齢者の外出機会の減少等も見受けられ、入場者数が伸び悩んだと考えられます。依然、厳しい状況が続いております。

サロン営業として一般対局、棋士指導碁、級位者の日等を開催し、貸室は囲碁教室の利用や各種団体への提供を行い、また販売サービスとして人気のある囲碁用品そして書籍

の品揃えの充実に努め、快適な環境改善に取り組みました。

今期も年間を通じ多くの方にご利用して頂き入場者数は昨年より微増の 11,961 人となり 81 万円の増収となりました。

・「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトに会員制囲碁サロンとして大阪市北区茶屋町で営業しました。サロンの会員継続維持とコロナ禍で減少した会員の再登録の働きかけ、DM 等による新規会員の勧誘に努めましたが厳しい状況が続いております。会員数は月平均 22 名、法人会員は 4 社の継続となりました。引き続き会員の拡大と新たな顧客ニーズに対応した普及を行ってまいります。

(3) 大学での囲碁講座開設への取組み

令和 5 年度は関西圏において大学 4 校（京都大、大阪大、近畿大、桃山学院大）で対面による囲碁講座が取り入れられ授業の運営等に協力しました。若者層への普及拡大として各大学への講座開設の働き掛けを引き続き積極的に行います。

(4) 小中学校および当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及活動

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら関西の小学校や幼稚園等の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう働きかけ、コロナ禍で学校環境が厳しい中、援助や協力を行いました。今後も引き続き子ども達への普及をより一層拡大してまいります。

また、地域普及活動として大阪府寝屋川市、東大阪市の地域主催の大会への運営援助や京都本部主催イベントへの後援や運営補助等を行い地域の囲碁普及に努めました。

10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・愛知県江蘇省青少年囲碁交流 中止
- ・朝日アマ東海地区団体十傑戦 中止
- ・打ち初め式 55名
- ・日経杯新春囲碁大会 89名
- ・ジャンボ団体戦 253名
- ・中部総本部段級位認定大会【6回開催】（参加534名）

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・中日新聞社主催「第65期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

指導碁は、平日 1 名、土・日曜日は 1~2 名の棋士を配し、昨年より午前の部をお客様のリクエストに応じてスタートいたしました。

入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、全 10 講座を開講し、囲碁ファンの

底辺拡大に努めました。「入門初級講座」「よく分かる囲碁講座」「こども教室」「実力向上講座」「レディース講座」「目指せシングル級講座」「目指せ初段講座」「特別高段講座」「総合講座」「モーニング講座」

また、毎週日曜日にいつでも入門者を受け入れる体制を整えており、普及活動に努めております。

(4) 部屋の貸付

令和5年度は、6社に対して部屋の貸付を行いました。

引き続き、代理店などを通じてご入居に向けて取り組んで参ります。

(5) 法人会員

法人賛助会員3社、特別法人会員7社、中部法人会員21社、合計31社よりご支援頂いております。

しかしながら、長年ご支援頂いておりました2社より退会のお申し出がございましたので、これらの企業に継続して頂けるのが課題となってきます。

10-4 海外囲碁センター

(1) 2014年5月ニューヨーク碁センターを売却して得られた資金によりアメリカ囲碁協会(AGA)と提携して米国NPO法人『岩本北米基金=INAF』を創設し、ワシントンDCの囲碁センターの活動促進や、日米文化交流・指導プログラムなど北米での囲碁普及活動の多面的な支援を行っています。

(2) 北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターは、2022年本会館の売却により、新たな囲碁基金(岩本囲碁アウトリーチ基金=IGOF)を設立しました。また、2023年9月に新しい基盤での北米囲碁普及活動を活発に展開するため、新しい活動拠点となるコミュニティセンターに移転し、活動を再開しています。

(3) オランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センター(EGCC)は、2020年に本センターの物件を売却、その売却金を資金として2022年に囲碁基金『岩本欧州囲碁基金=IEF』をオランダに新設しました。2023年はヨーロッパ囲碁連盟の役員とともにIEFの理事会を開催し、今後のヨーロッパでの若者と女性への新たな囲碁普及活動を目指す予定です。

(4) ブラジル・サンパウロにあるブラジル日本棋院(南米本部)は、建物の老朽化に伴い補修を行い、現地の組織体制も一新され、南米での囲碁普及活動を行っています。

II 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業(収益事業1)

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。

免状は、棋力の証明となるもので、9級から八段までの1,037通の免状発行を実施し、免

状には審査役である棋士の署名がなされました。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を付与し、指導者の充実を目指しています。令和5年度は新しく17名の方が普及指導員になりました。また174名の方が資格を更新しています。六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。令和4年度は6名の新しい公認審判員が誕生しました。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸しました。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書等、囲碁に関する書籍を、日本棋院の各拠点及び全国の書店にて販売しております。また、本年度につきましては囲碁界のレジェンドが半生を語った「趙治勲 囲碁と生きる」、棋聖獲得までの軌跡を辿った「二刀流の棋士 一力遼」の2点の新刊を発行しております。

III 管理部門

1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。令和5年度は、内部統制取組方針に基づき、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、職員相談窓口の設置等の改善取り組みを実施しました。

2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図りました。囲碁ナショナルチームの「GO・碁・ジャパン応援募金」、小・中・高・大学等での囲碁授業向けの「がっこう囲碁普及基金」、法人賛助会員等の維持拡大を図り、囲碁の普及のために有効活用を図りました。

また、令和6年に創立100周年を迎えるにあたり、「創立100周年記念募金」も活用しています。

なお、個人と法人向けの「GO・碁・ジャパン応援募金」「がっこう囲碁普及基金」は、それまでの所得控除に加え、平成28年3月から税額控除の対象として証明を受けています。

3 広報対応と棋士のメディアへの露出

囲碁界のマスメディアへの露出につきましては、上野愛咲美新人王誕生のテレビ報道、仲邑菫女流棋聖の韓国棋院移籍会見の生中継等、これまでの新聞社文化部、学芸部の枠組みを超えた報道も増えており、創立100周年を迎える令和6年度に向けて、女子リーグ創設等、今後も女性棋士の活躍、囲碁の国際性等の囲碁の持つ強みをアピールし、社会全体の認知度を上げていく取組みを継続してまいります。

IV 「創立100周年事業」に向けて

日本棋院創立90周年にあたる2014年に策定した「100周年ビジョン」の提案に基づき、「100周年事業」を遂行してまいります。

役員等に関する事項

令和6年3月31日現在

役名	氏名	就任年月日	担任職務	備考
総裁	今井 敬	H16.7.13	総裁	日本製鉄株式会社 名誉会長
顧問	石田 芳夫	R 2.6.23	顧問	日本棋院棋士 九段 24世本因坊秀芳
理事長	小林 覚	H31.4.2	理事長	日本棋院棋士 九段
常務理事	柳 時熏	R 2.6.23	普及部	日本棋院棋士 九段
〃	大淵 盛人	H26.6.24	総務人事部、財務部、経営企画室	日本棋院棋士 九段
〃	石田 篤司	R 4.6.21	関西総本部	日本棋院棋士 九段
〃	溝上 知親	R 4.6.21	コンテンツ事業部	日本棋院棋士 九段
〃	青木喜久代	R 2.6.23	棋戦企画部	日本棋院棋士 八段
〃	宮崎龍太郎	H30.6.26	事業部、広報室	日本棋院棋士 七段
〃	武田 祥典	R 2.6.23	中部総本部	日本棋院棋士 二段
理事	石村 和彦	R 2.6.23		国立研究開発法人産業技術総合研究所 理事長
〃	遠藤龍之介	R 2.6.23		フジテレビジョン 取締役副会長
〃	佐川八重子	H30.6.26		株式会社桜ゴルフ 代表取締役
〃	角 和夫	H25.6.25		阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループ CEO
〃	高尾 紳路	R 4.6.21		日本棋院棋士 九段
〃	高濱 正伸	H30.6.26		花まる学習会代表
〃	外池 徹	H30.6.26		アライドメディカル代表取締役、ア フラック元相談役
〃	松浦晃一郎	H23.6.21		元ユネスコ事務局長、日本ペア碁協会 理事長、世界ペア碁協会会長
〃	柳本 卓治	R 2.6.23		囲碁文化振興議員連盟 会長
〃	吉川 正夫	R1.6.25		大成建設株式会社 専務執行役員
監事	大内 隆美	H30.6.26		一般社団法人構想日本 プロジェクト トリーダー（公益法人担当）
〃	藏本 隆	H30.6.26		公認会計士、税理士
〃	橋本雄二郎	H30.6.26		日本棋院棋士 九段

令和5年度 事業報告

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和6年6月

公益財団法人 日本棋院